

研究員の眼

ご当地 VTuber「沢ところ」に 2 回目のインタビューを試みた

今日もまたエンタメの話でも。(第6話)

生活研究部 研究員 廣瀬 涼
(03)3512-1776 hirose@nli-research.co.jp

今回の取材先

埼玉県所沢市ご当地VTuber 沢ところ
実施日：2025年3月14日（金）

1——1回目のインタビューの振り返り

「いつか私が運営するサイト『ご当地 VTuber 図鑑』の特集記事を書いて頂けたら嬉しいなと思い、ご連絡させて頂きました(๑ω๑)」。

2年前のある日、突然届いた一通のメール。それが、埼玉県所沢市のご当地 VTuber「沢ところ」との出会いだった。ちょうど筆者が VTuber に関するレポートを執筆していた時期であり、興味を惹かれてすぐにコンタクトを取ってみた。VTuber とは、2D もしくは 3D のアバターを用いて YouTube 上で活動する YouTuber のことを指すが、その中には、「ご当地 VTuber」と呼ばれるグループがあり、彼らは、地域の魅力を PR し、地元の情報を発信することを主な目的として活動している。

ご当地 VTuber は、大手事務所に所属する VTuber や企業によるプロデュース VTuber と比べて知名度こそ高くないが、地元を愛し、その魅力を伝えようとする熱意には目を見張るものがある。筆者は、今後ご当地 VTuber が「ゆるキャラ」のように地域に根ざし、観光振興や地域活性化に大きく貢献していく存在になると確信している。

「沢ところ」も、そんなご当地 VTuber の一人である。彼女は 2021 年 11 月にデビューし、以来、埼玉県所沢市のグルメ、観光、イベント情報などを精力的に発信している。前回 2023 年に執筆したレポート¹では、なぜ彼女はご当地 VTuber を始めることになったのか、実際どのような活動をしているのか、といったインタビュー記事が中心であった。当時の彼女は、埼玉りそな銀行と電子通貨のコラボレーション、地元のラジオや所沢に店舗を構えるディスカウントストアのドン・キホーテの公認 VTuber に就任、家電量販店のビックカメラの所沢駅店オリジナルキャラクターとコラボレーション

など、地元に着しながら多岐にわたって活動の幅を広げていた。

その中でも、ひときわ異色なのがメールにも書いてあった「ご当地 VTuber 図鑑」の Web サイト開設であった。

図1 ご当地 VTuber 図鑑 公式サイト



出所：沢ところ提供 (<https://tokotabi.wixsite.com/local>)

その背景には個人のご当地 VTuber の活動の難しさがある。そもそも個人で活動するということは、ノウハウを自分で築かなくてはいけない。また、大きな事務所に所属していたりや市町村公認で活動されている VTuber は、企業にとって窓口がわかりやすくコラボがしやすいが、個人で活動していると活動が軌道に乗るまで依頼が来なかったり、自分で営業をする必要がある。沢ところは「ご当地 VTuber 図鑑」がプラットフォームのように各地の都道府県、市町村、企業、メディアとご当地 VTuber との接点になる事を強く望んでいた。

ご当地 VTuber は地元の魅力を伝えるにはどうすればいいのかという点に大きな目的や使命感を抱いているだけに、地方出身の私としては、この「ご当地 VTuber 図鑑」が、企業とご当地 VTuber との接点となり、活動の幅を広げるプラットフォームになってほしいと強く思ったものである。

2——「ご当地 VTuber 図鑑」の書籍化

それから、時は流れて 2025 年。筆者が X を眺めていると、「ご当地 VTuber 図鑑」書籍化決定に関する投稿が流れてきた。「え？書籍化するんだ？」、少し期待をしながら 2 年ぶりにインタビューにうかがった。

廣瀬：お久しぶりです！この 2 年間で大きな変化はコロナ禍の影響が無くなったという点だと思いますが、VTuber 界でもコロナがあけて大きな変化はありましたか？

沢ところ：コロナ前はインターネット空間でのイベントが中心でしたが、現在は有観客のリアルイベントが各地で開催されています。コラボカフェやコラボショップ、トークイベント、VTuber 活用に関する講演会など、実際に多くの人が 1 つの場所に集まって、VTuber を身近に感じられるイベントが増えています。

沢ところ自身の活動も、より現実世界と密着した活動が増えている。2024 年 12 月には『所沢警察署犯罪抑止広報大使』に就任。埼玉県内での「VTuber×警察署」の企画ははじめての試みであると同時に、沢ところ自身にとっても初の公的機関コラボであった。警察署が毎年配布している犯罪抑止カレンダーデザインに起用され、所沢の神社や、警察署主催のイベントで配布された。また、埼玉県警の公式 YouTube にオリジナルコンテンツを投稿するなど、VTuber ならではの啓発活動も行っている。

図 2 所沢警察署犯罪抑止広報大使に就任した「沢ところ」



出所：沢ところ提供

中でも筆者が興味を持ったのは「沢ところの書道教室」なるイベントだ。本イベントは、2025 年 1 月・2 月に開催された所沢市の山口及び椿峰地区とその周辺地域で、子どもへの配食支援や地域交流の場を提供している「一般社団法人つばきのわ」との共同企画だ。つばきのわから、地域の子どもたちに楽しんでもらえるような企画をしたいという相談を受け、書道を教えることができる彼女が書道体験を提案したことからはまったそう。しかし、ここで 1 つ疑問も生まれた。

廣瀬：画面越しにどうやって添削とか指導するんですか？

沢ところ：リモートじゃ無理だから、自分で衣装を作って、リアルの世界でも見える姿でイベントを開催致しました！！

廣瀬：は？

それはもう VTuber ではないのでは？？？と思ったが、確かに彼女のように個人で活動している VTuber は、大手の事務所に所属している人気 VTuber と異なりできることに限界がある。なにより、彼女のアバターは彼女自身が自ら作成したモノであり、技術面でも実現が難しい事の方が多いように思われる。ある意味姿を見せないことが VTuber の人気の理由でもあり、生身の姿を見せることが VTuber のイメージにも影響を与えかねないというリスクでもある。それでも彼女は笑いながら「子ど

もたちのために何かしたかったので実現できてよかったです！！」と話してくれた。

図3 沢ところの書道教室



出所：沢ところ提供

北海道と栃木県には、実際に「2.5 次元ご当地 VTuber」として活動している者もいるらしく、資金面や技術面で難しいことを「生身を使う」というある意味タブーな手段を活用してでも実現しているとのこと。地域の魅力の発信や貢献したいという熱意に改めて驚かされた。

最後に「ご当地 VTuber 図鑑」の書籍化について話を聞いてみた。

廣瀬：どのような経緯で出版化が決まったのですか？

沢ところ：「サイト『ご当地 VTuber 図鑑』を立ち上げた 2022 年 11 月当初から書籍化の夢を抱いていました。2023 年から、様々な出版社に書籍化の企画を持ち込み、その中でアニメ・コミック・ゲーム関連商品の販売チェーン店を運営する株式会社アニメイトさんに興味を持っていただき、子会社である株式会社メロンブックスさんから協力を得ることができました。」

本著は、100 名以上のご当地 VTuber 情報に加え、観光地・グルメ情報・方言なども盛り込んだ観光誌となっている。「るるぶ」や「まっぷる」を意識しているそう。また、沢ところの特技が書道であったように、イラストや漫画を描くこと・写真を撮ることが特技である者、専門的知識を持っている者、英語が話せる者など、ご当地 VTuber の特技は十人十色だ。併せてリアルイベントを開催している者、警察署とコラボをされている者、自治体公認で活動している者など、ご当地 VTuber が実際にどのような活動をしていて、どんな地域貢献ができているのか、どんな活用方法があるのか、どんな活躍の場があるのかを、ファン・自治体・企業など、それぞれの視点から参考になるような特集

が組まれている。

図4 「ご当地 VTuber 図鑑」



出所：沢ところ提供

3—ご当地 VTuber の可能性

前述した「沢ところの書道教室」では、赤い羽根募金の助成金を活用し、会場設営や道具などの準備をしたそう。VTuber と赤い羽根の共同募金。一見結びつきがなさそうな要素であるが、VTuber も生身の人間と変わりはなく、その人の特技や意思が地域福祉の貢献に繋がるのだ。地域に根差した活動ってこういうことだよな、と筆者はご当地 VTuber への大きな可能性を感じた。

このように、ご当地 VTuber は、エンターテインメント性と地域密着性を両立させた新しい地域 PR の担い手として成長しつつあるが、これから地域再生や地域の魅力発信において大きな可能性を秘めていると思われる。若年層に親和性の高い動画や SNS を通じ、従来の広報手段では届きにくかった層に対しても効果的に情報を届けることができる。また、地域への愛着を持った個人による自発的な活動である点からも、共感を呼びやすく、地元住民を巻き込んだ活性化の起点となり得るのである。

その中でも、「沢ところ」は、ご当地 VTuber を可視化・ネットワーク化することで、企業や自治体との新たな接点を創出してきた。実際に彼女は、同図鑑を出版後、国会図書館をはじめ、全国の観光課や図書館へ地道に献本活動を行っている。中でも「内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局」への献本を実現し、地域のために活動する若い世代が確かに存在していることを行政関係者に伝える機会を得たことに、大きな手応えと意義を感じているという。

こうした取り組みは、単なる個人活動にとどまらず、今後の地域創生政策や地域ブランディング戦略における新たなモデルの一つとして位置づけられるべきである。ご当地 VTuber は、デジタル時代における「地域の顔」として、観光・文化・産業の活性化に貢献する次世代型の地域人材であり、その存在価値は今後さらに高まっていくだろう。

¹ 廣瀬涼「「ご当地」VTuberの可能性—ご当地 VTuber「沢ところ」へのインタビューから見てきたコト」
基礎研レポート 2023 年 04 月 06 日 <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=74426?site=nli>